

CCBJニュースレター 第105号

2023年3月30日

会員の皆様、

先日開催されたCCBJ主催の新年会にお集まりくださいました皆様に感謝申し上げます。今年の新年会は対面形式で行われ、会員の皆様の情報交換の機会ともなりました。

現在各種イベントの再開が進められており、日本政府もビジネスの場などでのマスク着用を不要とする方針を示しています。

CCBJでもイベント事業に力を入れており、4月12日には「モニカ&フレンズ」の作者であるブラジルの国民的漫画家マウリシオ・ジ・ソウザ氏を称えるイベントを開催します。駐日ブラジル大使館で開かれる本イベントにはソウザ氏も参加する予定ですので、是非皆様もご出席くださいますようお願い申し上げます。

4月21日には、元味の素株式会社社長の西井孝明氏を講師にお招きし、ブラジル市場で長い歴史を持つ日本企業の事業展開について学ぶセミナーを開催します。

今月のニュースレターでは、1998年以来ブラジルをはじめとする世界各国の商品を日本へ輸入するワールドリンクスの代表取締役の野呂正道氏にご寄稿いただきました。

ブラジル銀行と駐日ブラジル大使館が共催したウェビナー「ブラジルの炭素市場について」では、持続可能な発展の実現に向けたブラジルの取り組みが紹介されました。同ウェビナーに関する記事も掲載しましたのでご覧ください。

それではどうぞよろしく申し上げます。

CCBJ会頭

行徳セルソ

(寄稿)

世界につながる

ワールドリンクス代表取締役

野呂正道

有限会社ワールドリンクスは1998年8月に埼玉県川口市に誕生、社名の由来は食文化の交流を通じて世界につながるという夢が込められている。創業当初はキッコーマン醤油やエスビー食品のカレールーなど日本食品をブラジルに輸出していた。世界的な日本食ブームの恩恵もあり、取扱品目は海苔、調味料、ふりかけ、日本酒から菓子類にいたるまで徐々に広がり、ブラジル経済の厳しい経済状況の中でも売上は比較的順調に推移してきた。

2007年5月にはレストラン部門を設立しシュラスカリア「グリルカップン・ドウラード」を埼玉県鶴ヶ島市で始めたが、2008年10月には株式会社カップンドウラードを設立してレストランに加えブラジル食材、ペルー食材を扱う小売店事業もスタートした。小売店「ブラジルストア（鶴ヶ島市）」から得られた商品情報や顧客層情報はその後のワールドリンクスの活動の幅を広げる大きな手助けにもなった。

輸入卸業に本格参入したのはこの10余年と歴史は新しい。2012年にブラジル最大手洗剤メーカーであるキミカ・アンパロ社（YPEブランド）の食器洗剤や柔軟剤、2015年からは焼菓子メーカーであるパンドウラッタ社のビスケット、ウエハース、パネトーネを輸入。コーヒー生豆、焙煎コーヒー、パルミットなど徐々にブラジル食品の輸入扱いも増えてきた。

焙煎コーヒーについては最近新しい試みをはじめた。日本在住のブラジル人は、中細挽で香り高い濃厚なコーヒーを好む。そこでブラジルのミナスジェライス州オリベイラ市にコーヒー農園をもつ栃木県益子市のITC(株)（益子珈琲）にブラジル人の好む味を一からつくってもらった。ブラジルから日本に輸入した生豆を日本に住むブラジル人向けに焙煎し挽いた商品となる。農園の名前「(Café) Fazenda Sonho Verde」をストレートに商品名とし

た。「小ロット製造なので、一番いいかたちでお客様にお届けできるから好評」だという。「ブラジルのシッチオ（故郷）で飲んでいた懐かしいコーヒーの味だ」という声も聞かれる。

いま日本国内在住の外国人を取り巻く環境も大きく変わってきた。2008年のリーマンショックや2011年の東日本大震災によって日系ブラジル人の働き手は大幅に減少した後、ベトナムやフィリピンなど東南アジアの働き手が増えてきた。

そのアジア系外国人の食材を提供する窓口になってきたのが各地に点在するブラジル食材店ともいえる。ブラジルストアの村元シルビオ店長によれば「最近ではお客様の3割はベトナム、フィリピンなどアジアのお客さんです。インドネシア、スリランカ、ネパールのお客様も増えてきました」と語る。ブラジル中心であったワールドリンクスの輸入商品構成も東南アジア、欧州など多方面にわたる。「食文化」の交流を通じて世界につながる、という創業当初の思いが少しずつ形になってきたともいえる。

お問い合わせ：

有限会社 ワールドリンクス
千葉営業所
千葉県袖ヶ浦市三箇972-1

(経済)

ウェビナー「ブラジルの炭素市場について」

ブラジル銀行と駐日ブラジル大使館はウェビナー「ブラジルの炭素市場について」を3月3日に共催しました。オタヴィオ・エンヒッケ・コルテス駐日ブラジル大使は、「ブラジル政府は、気候危機との闘いや持続可能な開発の促進、公正かつ包括的なエネルギー転換の実現に向けた取り組みに積極的に協力するという歴史的な立場を強化しています」と語りました。

ブラジル銀行ビジネス部のホドリゴ・ダ・ホシャ・ヴォレッチ部長は、「ブラジル銀行はブラジルで最も環境に優しい銀行です」と述べ、CCBJの行徳セルソ会頭は「ブラジルが再生可能エネルギー分野で重要な位置を占めていることから、今回のウェビナーには重要な意味があります」と語りました。ブラジル銀行在日支店のアリソン・アギアール支店長は、持続可能なエネルギーやグリーン経済の推進を目指す企業をブラジル銀行としてサポートする用意ができていると述べました。

近年議論が活発化している炭素市場の規制に関しては、コロナ禍による危機の中、官民ともに規制プロセスの持続可能性、つまりカーボンクレジット取引が社会や環境にどのような影響を与えるかに強い関心を寄せています。

炭素市場は、温暖化の進行とその環境への深刻な影響を抑制するための手段であるだけでなく、カーボンクレジット取引は生物多様性に富むブラジルにとって重要な収入源となりうることから、経済的な影響も大きいと見られています。

このような文脈の中で、世界で最も持続可能な銀行として表彰されグローバル100にランクインした唯一のブラジル企業であるブラジル銀行は、駐日ブラジル大使館と共催でウェビナー「ブラジルの炭素市場」を開催しました。

排出量削減

講師としてウェビナーに参加した米州開発銀行マリア・ネット氏は、ブラジルの新政府は森林破壊を巡る状況の改善や排出量削減への取り組みに力を入れているとした上で、「ブラジルは再生可能エネルギー発電で余剰電力がある国の一つであり、ブラジルの電源構成は非常にクリーンなものです」と述べました。同氏によると、ブラジルの電源構成の85%はクリーンエネルギーで、排出量を2025年までに2005年比で37%、2030年までに43%削減することを目指しています。

講演内容はこちらから

英語：[https://www.bb.com.br/docs/portal/japao/
Trends_and_opportunities_Brazilian_Carbon_JP.pdf](https://www.bb.com.br/docs/portal/japao/Trends_and_opportunities_Brazilian_Carbon_JP.pdf)

日本語：[https://www.bb.com.br/docs/portal/japao/
Trends_and_opportunities_Brazilian_Carbon.pdf](https://www.bb.com.br/docs/portal/japao/Trends_and_opportunities_Brazilian_Carbon.pdf)

サステナブルな銀行

ブラジル銀行本店のサステナブルファイナンス部ヘッドであるエンヒケ・レイチ・ヴァスコンセロス氏によると、ブラジル銀行は1985年のブラジル銀行財団設立以来サステナビリティ分野の活動に取り組んでいることが評価され、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスで最もサステナブルな銀行に選出されました。また2005年には、ブラジル銀行は窓口係からトップまで全従業員が参加するサステナビリティ計画を打ち出しています。

講演内容はこちらから

英語：[https://www.bb.com.br/docs/portal/japao/
BB_Corporate_Sustainability_JP.pdf](https://www.bb.com.br/docs/portal/japao/BB_Corporate_Sustainability_JP.pdf)

日本語：[https://www.bb.com.br/docs/portal/japao/
BB_Corporate_Sustainability.pdf](https://www.bb.com.br/docs/portal/japao/BB_Corporate_Sustainability.pdf)